

有袋栽培のリンゴ果実に発生する ばら色かび病

研究のねらい

1997年，1998年と連続して県内の一部園地で，‘ふじ’や‘陸奥’など主要品種の有袋果実に黒色～黒褐色の小斑点を生じる障害が発生した。そこで，本障害の原因を究明し，防除対策を明らかにする。

研究の成果

1997年10月に有袋栽培の eふじ f や eジョナゴールド f などの果実に楕円形～不整形，大きさ1～5 mm，黒色～黒褐色の小斑点を生じる障害が発生した。小斑点の発生はがくあ部付近にほぼ限られ，中央部には白色の粉状物がみられた。被害部からは淡紅色の菌そうを呈した糸状菌が高率に分離された。

分離菌は菌糸から直立した分生子柄の先端部に，無色，2細胞，楕円形～洋なし形，大きさ $12.7 \sim 20.2 \sim 7.6 \sim 12.7 \mu\text{m}$ の分生子を左右交互に十数個形成した。ポット植え eふじ f の果実に対する分生子の無傷接種により，黒色～黒褐色の小斑点が生じ，接種菌が再分離された。以上から，本障害を *Trichothecium roseum* (Pers) Link ex Gray によるリンゴばら色かび病と診断した。本病は主に貯蔵中の傷害果に発生する病害として記録されているが，生育期間中の無傷果実で被害を確認したのは初めてであった。

りんご病害虫防除暦（青森県編）で実用化されている殺菌剤のほとんどは，本病に対して高い防除効果を示したことから，黒星病や斑点落葉病など主要病害との同時防除が可能と考えられた。



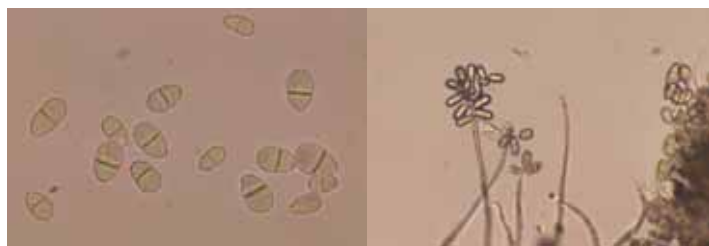
被害果（陸奥）



被害果（ふじ）



培養菌そう(PDA)



分生子と分生子柄

主要な試験データ

第1表 黒色～黒褐色の小斑点を生じている被害果から分離される糸状菌

採取地点	品種	調査 果数	分離に 供した 病斑数	分離菌の種類と数					
				Tr.	Al.	Fu.	Pe.	Nl.	Ba.
金木町	つがる	2	6	0	0	0	2	0	4
弘前市A	ふじ	15	44	32	3	0	1	6	3
弘前市B	陸奥	2	7	3	1	0	0	0	1
弘前市C	ジョコ [®] -ルト [®]	1	5	3	0	0	0	2	2
黒石市	陸奥	4	22	19	2	1	1	8	0
浪岡町	ふじ	6	15	9	3	0	0	6	0
合計		30	99	66	9	1	4	22	10
比率(%)		-	-	58.9	8.0	1.0	3.6	19.6	8.9

注) Tr: *Trichothecium* sp., Al: *Alternaria* sp., Fu: *Fusarium* sp., Pe: *Penicillium* sp., Nl.: 不明菌, Ba: 細菌

第2表 リンゴばら色かび病の発生実態(1997年)

調査品種	区分	園地数	発病果率(%)別の園地数		
			0	1	5
ふじ	有袋	14	13	1	0
	無袋	11	11	0	0
ジョコ [®] -ルト [®]	有袋	11	10	1	0
	無袋	2	2	0	0
陸奥	有袋	4	3	1	0
	無袋	1	1	0	0
その他	無袋	12	12	0	0
合計	有袋	29	26	3	0
比率(%)		100	89.7	10.3	0
合計	無袋	26	26	0	0
比率(%)		100	100	0	0

発表資料

1. 病虫肥料部(2000). りんごばら色かび病の症状と診断のポイント. 平成12年度指導奨励・指導参考事項等: 98-99.
2. 雪田金助ら(1998). 有袋栽培のりんご果実に発生した *Trichothecium roseum* によるばら色かび病. 日植病報 64: 610(講要).
3. 雪田金助(2000). 有袋栽培のりんご果実に発生する「ばら色かび病」. 青森農業 51(10): 58-60.